

第4節 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

1. 基幹・環境整備(階段設置工事)に伴う確認調査

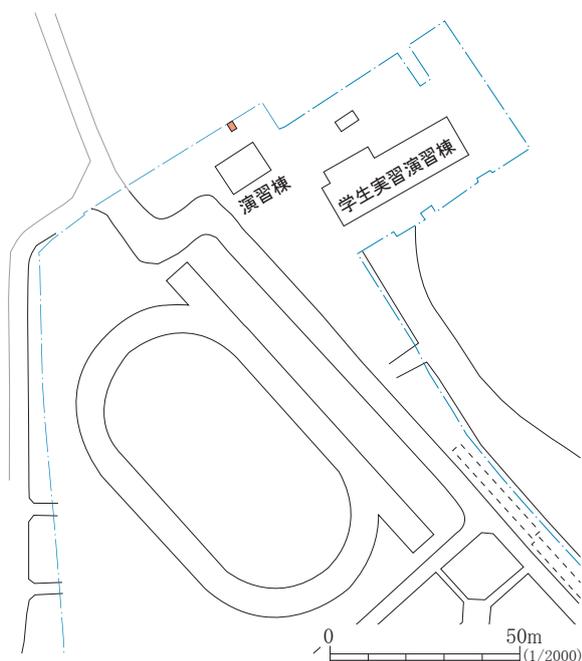


図 33 調査区位置図

調査地区 光構内
 調査面積 約3.7㎡
 調査期間 令和3年4月19日
 調査担当 田畑直彦
 調査結果

基幹・環境整備(擁壁安全対策)に併行して、演習棟の北西側の敷地境界部に階段工を設置することになった。演習棟の南側にある構内道路では、平成24年度に実施された公共下水道接続工事に伴う立会調査^{註1}で、遺物包含層、土壌などが検出されているが、北西側については調査履歴がなく、状況が不明であった。このため、令和2年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和3年3月31日(水)開催)の審議を経て、確認調査を行った。

工事による掘削は現地表下約115cmまで行われたが、すべて造成土であった。また造成土からは椀瓦片、レンガ片が出土した。以上のように埋蔵文化財に支障はなかったが、演習棟の北西側は地下の状況に不明な点が多いため、今後も埋蔵文化財の保護に注意が必要である。

【註】

- 1) 田畑直彦(2016)「教育学部附属光附属学校下水道接続修工事に伴う立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成24年度—』, 山口



写真 84 調査区全景 (南から)



写真 85 調査区土層断面 (南から)

2. 基幹・環境整備Ⅱ(擁壁安全対策)((附属光小・中学校)学生宿泊施設沿岸部分改修)

工事に伴う確認調査

調査地区 光構内

調査面積 約819㎡

調査期間 令和3年10月7日、11月2～5・8日

調査担当 田畑直彦

調査結果

(1)調査の経緯

令和2年度から継続して実施された擁壁安全対策工事に伴い、令和2年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会(令和3年3月31日(水)開催)の審議を経て、確認調査を行った。

(2)層序

掘削工事は学生実習演習棟の北東、南東側で実施された。調査の結果、調査区南部では、既設の擁壁撤去後の壁面の崩落が著しかったため、調査段階では壁面が矢板で補強されていた(写真88)。このため、A地点とその周辺でのみ土層を確認した。A地点の土層(写真89・90)は、現地表下155cmまでが①表土・造成土、155～160cmが②灰オリーブ色(7.5Y5/2)粗砂、160～167cmが③暗褐色(10YR3/4)粗砂・②のブロック、167～192cmが④灰白色(1.5Y8/2)粗砂・⑤オリーブ黒色(5Y3/1)粗砂であった。④層から土師質土器片、⑤層から瓦片・磁器片が出土した。③層は近世～近代の旧地表面と考えられるが、面積が狭小であるため時期の断定は困難である。

調査区北部では、陸地側からは重機を使用して掘削が行われ、重機による掘削ができない外縁部は海側からクレーンを使用して掘削が行われた(写真92)。B地点・C地点では、現地表下約70～100cmで石垣を確認した。しかし、攪乱や壁面の崩落、湧水により、明確に層序を確認することができなかった。なお、B地点では掘削時に現地表下約2.2mで土師質土器片、陶器片を採集した。

外縁部では現地表下約4.4m(標高約-3m)まで掘削が行われた。排土を確認した結果、現地表下約2.3m付近までは石垣や裏込めに使用されていた

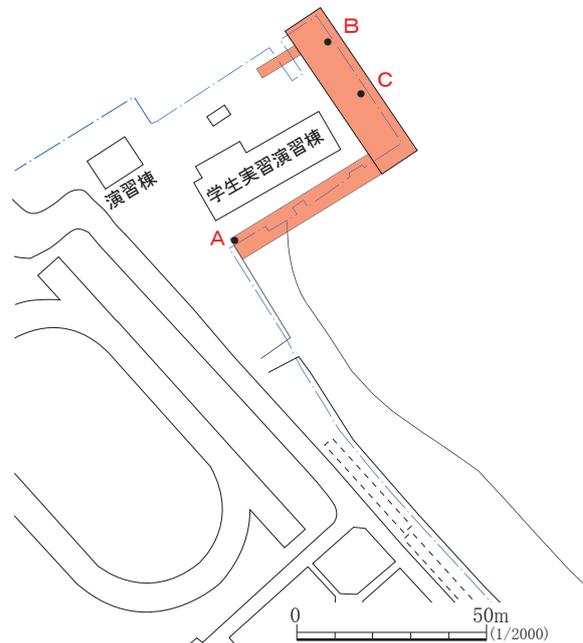


図34 調査区位置図



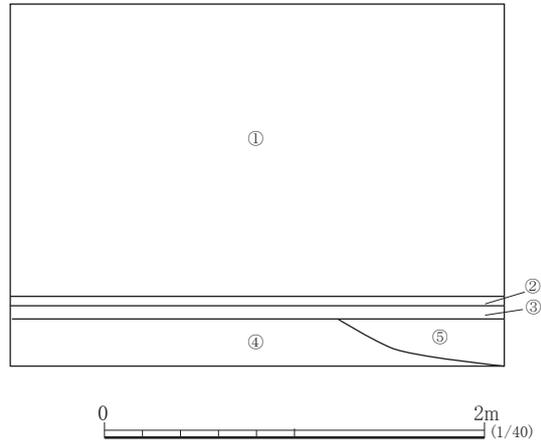
写真86 工事前の状況1(南西から)



写真87 工事前の状況2(南東から)



写真 88 調査区南部 (南西から)



- ①表土・造成土
- ②灰オリーブ色 (7.5Y5/2) 粗砂
- ③暗褐色 (10YR3/4) 粗砂・②のブロック
- ④灰白色 (2.5Y8/2) 粗砂
- ⑤オリーブ黒色 (5Y3/1) 粗砂

図 35 A地点土層断面柱状図



写真 89 A地点土層断面 (南東から)



写真 91 調査区北東部掘削状況 1 (南東から)



写真 90 A地点土層断面 (下部 南東から)



写真 92 調査区北東部掘削状況 2 (南から)

とみられる石が主体であったが、掘削底面付近では砂と20～40cm大の石が主体となり、近世～近代の陶磁器、土錘・網、松杭が出土した。

(3) 遺物

1は土師質土器(佐野焼)甕の口縁部。A地点④層出土。2、3はB地点掘削底面採集。2は土師質土器(佐野焼)甕の底部。3は器種不明の陶器底部。外面に鉄釉を施釉する。

(4) 小結

以上の調査の結果、調査区北部は近代以後の施設建設や護岸整備による攪乱を受けていた。一方、調査区南部(学生実習演習棟南東側)ではA地点の状況から、近世～近代の遺構面が残存している可能性があり、今後の掘削工事において状況を確認する必要がある。

【註】

1) 田畑直彦(2024)「基幹・環境整備(擁壁安全対策)工事に伴う確認調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—令和2年度—』, 山口

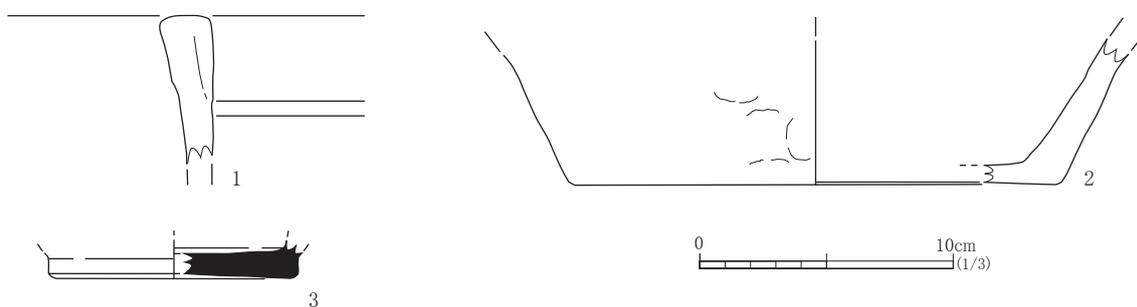


図36 出土遺物実測図



写真93 出土遺物

表4 出土遺物(土器)観察表

法量()は復元値

遺物番号	調査地点・層位	器種	部位	法量 (cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	A地点④層	土師質土器 甕	口縁部			①②灰黄色 (2.5Y7/2)	0.5～4mmの砂粒を含む	佐野焼
2	B地点掘削底面採集	土師質土器 甕	底部	② (21.5)		①灰黄色 (2.5Y6/2) ②灰黄色 (10YR7/2)	0.5～4mmの砂粒を含む	佐野焼
3	B地点掘削底面採集	陶器 器種不明	底部	② (9.9)		素地 褐灰色 (7.5YR6/1～5/1) 釉 灰褐色 (7.5YR4/2)	精良	